

令和6年度第2回研修会の概要

『カナダビーフ、カナダポークの現状と今後の展望について』（報告）

1 研修のねらい

日本の食肉の輸入環境が悪化している中で、積極的なプロモーションを行って存在感を増しているカナダのビーフ及びポーク。

食肉業界において、どのような選択肢であるのかを考える機会を提供するために標記演題により講習会を開催した。



小林専務理事(センター)の挨拶

2 開催の概況

(1) 日時 令和6年7月25日(木) 14時～16時

(2) 場所 会場：日本食肉流通センター大阪事業部南館管理棟2階セミナー室

会場以外に、日本食肉流通センター川崎G棟3階大会議室での視聴の他、個別のZoom 接続による視聴

(3) 講師 カナダビーフ国際機構 清富 一郎 駐日代表
カナダポーク日本事務所 木村 憲氏 マーケティングディレクター

(4) 参加者数 大阪会場 46 名、川崎会場 13 名、Zoom 参加者 60 名 合計 119 名

3 講演内容（文責は報告者）

(1) カナダビーフ

(講演のポイント)

- ・カナダは、穀物肥育の生産ではアメリカに次ぐ2位の位置、日本と韓国へ牛肉輸出では、アメリカ、オーストラリアに次ぐ3位。

- ・日本向けは、価格面で見て関税が今後下がることから



清富 一郎 駐日代表の講演